



共生社会づくりの一層の推進に向けて

三重県知事 鈴木英敬



新年あけましておめでとうございます。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の脅威は、私たちの暮らしや価値観などに大きな変化をもたらしました。このような中、感染症の収束と経済の回復を両立し、新たな日常を創造していく必要があります。県では、この逆境を県民の皆様と乗り越え、「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」を実現するため、あらゆる施策を一層加速してまいります。

また県では、障がいの有無によって分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現をめざして、総合的かつ計画的に障がい者施策を推進しています。現行の「みえ障がい者共生社会づくりプラン」が今年3月をもって終期を迎えることから、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変容やDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入、SDGs（持続可能な開発

目標）の視点など、障がい者を取り巻く環境の変化をふまえ、現在、次期プランの策定を進めているところです。今後とも、障がい者の権利擁護、就労の促進、地域生活の支援や、障がい者の芸術文化活動を通じた社会参加の促進など、さまざまな障がい者施策を推進していきますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さらに、障がい者スポーツの振興と、障がい者の自立や社会参加を着実に推進していくため、障がい者スポーツの普及と裾野の拡大を図っているところですが、いよいよ今年、「三重とこわか国体・三重とこわか大会」を開催します。オンライン式典を行うなど、感染症対策を踏まえた新しい両大会となるよう取り組みますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年の皆様のご多幸とご活躍を祈念し、新年のあいさつといたします。

新年のごあいさつ

公益社団法人 三重県障害者団体連合会 会長 世古佳清



新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響で自粛生活が続きますが皆さまお変わりございませんか。

昨年、コロナショックにより各国でロックダウンをはじめとする厳しい活動制限が実施されました。

日本でも緊急事態宣言が発令され、社会経済活動の制限が行われ、2020東京オリンピック・パラリンピックなどの催し物の全てが延期・中止されました。

また、その年の話題となった新語・流行語を決定する年末恒例の『2020 ユーキャン新語・流行語大賞』においても「3密」が“年間大賞”に輝き、トップ10に「アベノマスク」「オンライン○○」「GoToキャンペーン」などコロナ禍での新しい生活様式に関係した言葉が選ばれています。

当連合会では春先の事業中止後は、人数制限をはじめ感染拡大防止対策を施し、ボウリング教室、福祉大会、障がい者芸術文化祭を実施したものの、年末の感染拡大（第3波）により、交通安全啓発事業

を急遽中止しました。

いつまで続くか分かりませんが、一日も早く収束し、落ち着いた生活を取り戻せるよう心からお祈り申し上げます。

さて、私たちを取り巻く環境としては、社会経済の悪化により、障がいを理由に必要な支援を受けられず、取り残された状況が起きています。障害者権利条約では、障がいに基づくいかなる差別も禁止し、すべての障がい者のあらゆる人権及び基本的自由を完全に実現し、促進することを求めています。

障がいのある私たち自身が、障がいに対する正しい理解と、差別や偏見を生まない意識を、地域社会の中に育てていかなければなりません。

私たちは、全国の仲間と共に障がい者福祉向上に取り組みますので、皆様方におかれましてはご尽力を賜りますことをお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

最後に皆様のご健勝を祈念申し上げます。

三重県知的障害者育成会

新型コロナウイルス下での知的障害者支援

令和2年のお正月明けからじわじわと迫ってきた新型コロナウイルスが、いよいよ身近に来たと思ったらすべての会議や事業が軒並み中止になってしまいました。

その中で、一番不安に思ったことが「自分が新型コロナウイルスに罹ったときにこの子はどうなるの?」という心配でした。

また、本会のように障害者支援事業を運営している団体においては、事業所内に新型コロナウイルスが入ってきたらという心配に襲われたと思います。

いままで災害時にはこうすると思っていたことも大きく見直しが求められています。

このような見直しの中に『障害』のある方への対応策はどうするのか等々心配は尽きません。

本会では、今年度の国会議員さんや県議会議員さんとの懇談会で下記の要望を行いました。

危機管理

1. 災害時の知的障害者への支援と新型コロナウイルス下での避難のあり方

災害時に行動障害のために避難所へ行くことをためらうと言われる人達があり、支援を拒否して地域の見守りから抜け落ちている家庭があります。

今般の新型コロナウイルスの発生で余計に課題が増えてきています。

- 1) 災害時の避難所での受け入れ体制の確立
- 2) 避難の誘導をどうしていくか?地域から孤立している障害特性で発症の自覚や対応策の実行が難しい人をどこでどう受け入れていくか
- 3) 障害者の家族への災害時のアプローチの方法や支援できる人の手当てをどうするか
- 4) 新型コロナウイルスへの対応が難しい場合の避難所以外の受け入れ先の確保

別 掲

1. 新型コロナウイルスへの対応

三重県は、発症者が少ないままに推移してきましたが、少しずつ若年層を中心にじわじわと増えてきて、クラスターも発生しています。

このような中、感染リスクが高まり、もし親が感染したら、わが子が感染したら、利用者さんが感染したらと不安をもって過ごされている方々がたくさんいると思います。

- 1) 親が発症して入院した時の障害者の受け入れ先の確保

ショートステイでは対応ができかねる濃厚接触

者となった知的障害の方は、自分の置かれた状況を把握しにくく、どこで受け入れて、どう支援していくのか今のうちにご検討をお願いいたします。

入所施設では、感染拡大の場合には、外部からの受け入れは断られます。ショートステイも同じでした。

- 2) 入所施設での感染が起き、クラスターが発生した場合

ゾーンを形成して罹患者と未感染者を分けたとしても、完全に分けられません。知的障害の方々には、コロナどころかインフルエンザなどの罹患に関して予防などの理解が困難なところがあります。

千葉での発症では、職員さんの罹患を覚悟での支援があったと聞いています。

2. 障害者支援事業所の救済を

新型コロナウイルスの影響下においては、小規模形態の事業所への管理運営費補助が欠かせないと考えます。

新型コロナウイルスの影響で自主自宅待機や罹患での利用断念などが増えてきた場合に、職員への支援として「雇用調整助成金」が支給されますが、小規模法人ではぎりぎりの運営のために内部留保が出来ずに固定費である光熱水費や法定福利費の法人負担分という運営管理費の捻出が困難となると考えられます。

利用料として通所日数での支給となっているために、事務処理への経費として20人以下は単価を上げていただきましたが、インフルエンザでも、新型コロナウイルスでも、利用自粛や休所などが起きた場合にでも発生する運営管理費を負担できず、事業継続が困難になってしまうようなことが起きないかを危惧しています。

理事長 高鶴かほる

事務局 ☎ 059-225-3930 F AX 059-225-3935

E-mail:oyanokai@eos.ocn.ne.jp

HP <http://www.mie-ikuseikai.sakura.ne.jp>

三重県知的障害者福祉協会

新年明けましておめでとうございます。

平素は、障害者社会参加促進事業の活動を通じ、当協会会員事業所の利用者の皆さんに様々な活動や交流の機会を頂き深く感謝申し上げます。

令和2年度に入り、中国武漢が発症と言われてきた新型コロナ感染症がわが国でも認められ、今や感染の第3波の到来と言われるほどまでにその勢いを増し猛威を振るっています。

当協会ではこの間、感染予防や感染時対応に向け

本部を通じた厚労省への要望活動や三重県へのお願いなどの取り組みを行ってまいりました。

加えて当協会では、独自に会員事業所・施設に新型コロナウイルス感染症に関する情報提供、会員事業所・施設の情報収集、感染症有事の際に必要な感染防止資材の備蓄など可能な取組を行ってまいりました。

現状ではそれぞれの会員事業所・施設における感染防止対策の取組により感染者が出たりクラスターが発生するという事態にはありません。

しかし、利用者の方々にとってはこれまで日常に相当の制限が加わるなど厳しい暮らしを強いられています。

終息の見えないコロナとの闘いは今後も続くと思われれますが、現下における支援のありように目を向け、利用者の方々の日常を取戻し、より豊かな暮らしの実現を目指して協会一丸となって取組む所存でございます。

障害のある方を支援されている各種関係団体の方々と手を携え、この危機を乗り越えていきたいと切に願っております。

会長 近藤忠彦

事務局 ☎ 059-268-1115 (まもり苑・本弘)

三重県聴覚障害者協会

2020年度前半(2020年4月～2020年12月)の事業は、4月12日(日)県体育大会「ボウリング競技大会(津市)」、4月19日(日)県体育大会「卓球競技大会(四日市市)」、5月17日(日)「第73回三重県聴覚障害者福祉大会(松阪市)」、6月27日(土)「第7回みえ女性フォーラム(松阪市)」、7月5日(日)「三重県手話通訳問題研究討論集会(伊賀市)」、8月1～2日(土～日)三重県手話サークル連絡協議会合同企画「交流会、学習会」を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、残念ながら中止となりました。

11月8日(日)単発事業「アイドラゴンって何?(津市)」、11月15日(日)協会旅行企画「日帰り旅行(熊野方面)」は順調に実施でき、参加者相互の連帯を一層強められたのではと思います。感染拡大に伴う外出自粛が長期化し、自宅で過ごす聴覚障害者には情報が十分届かず、人との交流が少なくなりストレスを感じている会員も多いと思います。手話で話せないことで、孤立を感じます。手話のできる(使える)人と出会って手話で会話ができることは、私達のコミュニケーションの基本で嬉しいことです。

また、マスク越しのコミュニケーションは表情が読み取りづらく、感情が伝わりにくいこともあり、相手

が分かるように工夫する必要があります。一堂に会することが難しい状況の中、Zoom(ズーム)やSkype(スカイプ)などのリモートや、テレビ電話を使う機会が増え、会員の生活・活動の一助となっています。私たちがこれからも暮らしていくためには、新しい生活様式への変換と一人一人の行動が重要です。これを機に市民一人ひとりが不便さを認め合い、安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指していきたいと思っています。

当協会の会員数は2019年度の317名より31名減の286名、60歳以上の当協会会員は全会員の半分以上という深刻な高齢化の傾向で、ショッキングな出来事です。県理事会や組織部と共に会員一人ひとりが真剣に考えなければならぬ重要なテーマとして、地域協会にも働きかけていきたいと考えています。

2021年「三重とこわか国体・大会」が開催されるにあたり、情報支援ボランティアが活躍できるよう頑張りたいと思っています。

これからも、さまざまな困難があると思いますが、関係団体の皆さまとともに活動していけるよう、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

事務局 ☎ 059-229-8540 FAX 059-223-4330

E-mail:deaf.mie@viola.ocn.ne.jp

HP <http://deafmie.cocolog-nifty.com/blog/>

三重県視覚障害者協会

皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

さて、大変長くなっているコロナ禍の中で、視覚障害者の外出機会が大きく損なわれております。たとえば、同行援護制度については、視覚障害者の外出のための有益な制度ですが、ガイドヘルパーとの濃厚接触という歩行スタイルです。ガイドヘルパーが鉄道など公共交通機関の利用を拒否するケースも出てきており、平時の同行援護事業が出来かねている実態があります。三重県視覚障害者協会は、三重県に対し、同行援護事業者や従事者の確保など視覚障害者の外出時の安全保障について、強く要望しているところです。

そういったことですが、視覚障害者の安全・安心な移動において、コロナ禍ではありますが、県民の皆さんにとって、視覚障害者への接し方、サポートの仕方などがわからないことがあれば、三重県視覚障害者支援センターにお気軽にお問い合わせください。

ここから、改めまして三重県視覚障害者支援センターのご紹介をさせていただきます。県センターは、

もちろん県の施設です。現在、三重県視覚障害者協会が、県センターの指定管理者となっています。次期となる令和3年度からの5ヵ年も、当協会が、県センターの指定管理者となる予定です。

県センターでは、県内の視覚障害者の方々が、より円滑に日常生活が営まれるよう、様々なサービスを提供しています。こうしたサービスを提供するために、県センターには大きく二つの機能があります。

ひとつは、図書館等情報サービス機能です。県センター内の図書館及び全国的なサピエ図書館から貸し出されている点字図書や音訳図書は、県内視覚障害者の方々にとって、いわば命の情報源です。さらには、毎月上旬に、三重県視覚障害者生活情報誌を発行しており、様々な記事を豊富に用意しております。約1,000人ももの県内の視覚障害者の方々に、点字、デジジー、メールなどで毎月送付しております。

いちど、三重県視覚障害者支援センターのホームページをご覧ください。「はなしょうぶ」という名前の三重県視覚障害者生活情報誌を、ぜひ読んでいただきたいと存じます。

そして、もうひとつの県センターの機能は、リハビリサービス機能です。白杖を使った歩行訓練や音訳の情報支援機器の操作訓練など様々な生活訓練を、年間延べ約500人ももの視覚障害者の方々に受けていただいております。最近、多くの中途視覚障害者の方々に、こうした生活訓練を受けていただいている傾向が強くなっています。県センターの役割を果たすうえで、大きな機能発揮だと感じています。

最後に、引き続き、協会並びに県センターをご支援いただきますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

会長 児玉千春

三重県視覚障害者支援センター
(津市桜橋2丁目131番地)

☎ 059-228-3463 FAX 059-228-8425

Email mieten@zc.ztv.ne.jp

HP <http://www.zc.ztv.ne.jp/mieten/p/>

社会福祉法人 三重県視覚障害者協会

(津市桜橋2丁目130番地)

☎・FAX・Emailは、県センター共用



三重県精神保健福祉会

さんかれんでは、精神保健福祉研修会で、多くの地域の皆さんへ精神障がいに対する正しい知識の普及を図るとともに、精神障がいを持つ当事者・家族

の方と交流する機会を設けることで、当事者の方々の持っている魅力やパワーを肌で感じていただくことを目的に、桑名保健所圏域を中心に6月に開催するべく準備してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応で今年度後半へ延期することとしました。再度来年度に延期することにしました。本年度後半は、啓発活動に取り組みます。

精神障がい者に対する誤解・偏見および三障害間の格差の是正に積極的に取り組みます。

精神障がい者が、地域で安全で安心して社会参加ができる環境の促進を図るうえで精神障がい者に対する交通運賃を身体障がい者、知的障がい者と同様に割引制度の適用対象にすることを東海地区家族会連合会と協力し要望活動を展開していきます。

医療費については、三重県の近隣県においては、身体障がい・知的障がいと同等の助成を受けておりますが、三重県の場合は1級の通院のみです。2級の医療費助成については各市町が夫々の立場で実施していただいておりますが三重県29市町中7市町においての助成に留まっています。県への要望に合わせ、各市町の家族会及び家族と協力し県内全域での助成を求める活動を進めます。

NPO法人 三重県精神保健福祉会 (さんかれん)

事務局 ☎・FAX 059-271-5808

E-mail:sankaren@mint.or.jp

三重喉友会

当会は創立66年目になり、現在会員数は85名です。喉頭や食道の摘出手術を受け、発声機能を失った方々のための患者会です。発声教室で訓練をして日常会話が出来ようになり、社会や職場に早く復帰されることが目的です。

この他、健康相談や親睦の場としても活発な活動をしています。このような患者会は全国にあって、NPO法人日本喉摘者団体連合会に加盟しており、各団体は互いに情報を交換しながら協力しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により各病院での発声教室は休止となりました。今、訓練中の方々の訓練する場所を検討しております。早く感染拡大が収束して例年のように活発な活動が出来ようように全会員が願っています。

【令和3年度の予定】 *新型コロナウイルス感染拡大の状況による

◆発声教室

毎月県内の病院で開催しています。

- ・北勢地区 市立四日市病院1階 11会議室
第一水曜日 13時～15時
- ・中勢地区 三重大学附属病院南館12階
三医会ホール
第三木曜日 10時～12時
- ・南勢地区 伊勢赤十字病院1階 山田ホール
第二木曜日 10時～12時
- ・東紀州地区（偶数月）
尾鷲総合病院1階 母親教室
第四木曜日 10時30分～12時
- ・会員の方は自由にお近くの教室に参加して下さい。

◆研修会

- ・発声指導員養成のための研修会が、毎年3日間行われ一般会員の方も参加できます。
- ・県外から発声指導のために講師を招き、集中的な訓練により成果が上がる研修会も行っています。

◆総会（発声教室、研修会）

毎年春に三重大学附属病院で開催されます。
発声訓練の成果として「発声コンクール」を行います。

◆一泊研修旅行

先輩からの手術後の体験談や、会員の悩み等を話し合ったりして親睦を深めています。

会員による発声コンクール（カラオケ大会）を行います。

◆出前授業

三重県教育委員会からの要請で県内の小・中・高等学校の生徒対象に「がん教育」として三重県内の病院の教授、医師と共にごがん体験者としての講演をしています。

◆三重県がん相談支援

三重県がん相談支援事業の一環として、三重喉友会もがん患者団体としてサポーター協力しています。

事務局 ☎・FAX 059-261-5257（塚本明雄）

E-mail:aki0350@zb.ztv.ne.jp

日本オストミー協会三重県支部

新年おめでとうございます。

日頃はオストメイトの福祉向上にご支援・ご協力を戴き有難うございます。

高齢会員が多いので新型コロナウイルス感染防止を最優先として、令和2年度に計画した行事はすべて中止としました。

毎回、研修会でのお世話になっています顧問医の先生、WOC認定看護師の皆様および医療関係の方々新型コロナウイルス感染症対応への多大なご努力

に紙上を借りて感謝申し上げます。

令和3年度の行事は、次のとおり予定しています。
（各行事とも、新型コロナウイルス感染の状況等を勘案して、開催の可否を決定していきます。）

【令和3年度の予定】

- ・5月 「支部総会・春の研修会」
会場：アスト津 13時～
- ・7月 「一泊研修会」
宿泊地：鳥羽市内ホテル
- ・10月 「秋の研修会」
会場：アスト津 13時～
- ・11月 「一泊研修会」
宿泊地：鳥羽市内ホテル
- ・令和4年3月 「新入会員研修会」
会場：アスト津 13時～

「春と秋の研修会」には、WOC認定看護師や専門医をお招きして講話をいただき、ストーマケアをはじめとする質疑応答を行います。

「一泊研修会」は「温浴施設での入浴」を通じて自信を持って社会に適応していける等、QOL（生活の質）向上のために参加者それぞれの経験や知見をもとに話し合いを行っています。

「新入会員研修会」は、ストーマケアや日常生活での注意点等を中心として、WOC認定看護師や経験豊かなオストメイトとの質疑応答でできるだけ早く社会適応が出来ることを目指しています。

会員でなくともストーマケアに不安のある方は、出席してご相談ください。また、オストメイトはご家族のご協力があって始めて快適なストーマ生活が過ごせます。ご家族でのご参加を歓迎いたします。

☆注 (1)ストーマ …腹部に造設した人工肛門・膀胱のことを言います。

(2)オストメイト…ストーマを造設した人のことを言います。

(3)WOC…皮膚・排泄ケア認定看護師のこと。（ウォックナース）創傷（Wound）・ストーマ（Ostomy）・失禁（Continence）にかかわる専門知識・技術を有すると認定された看護師。

支部長 ☎ 059-346-2589（溝川紳一）

事務局 ☎ 059-226-5201（在間敏明）



三重県肢体不自由児者父母の会連合会

あけましておめでとうございます。また、日頃から肢体不自由児者の福祉向上にご支援いただいている

三重県脊髄損傷者協会

令和2年は新型コロナウイルスの発生で事業や関係行事が実施出来なくなり現在に至っています。

脊髄損傷者は、新型コロナウイルスの感染症による重症化リスクの高い基礎疾患の方々が多く、皆さんステイホームで我慢しているのではないのでしょうか。

コロナ禍の中で人に会いに行き行って話をする事もはばかられ、自粛生活によるストレスで心身の不調を訴える人も増えているそうです。

医療機関に行きにくい、公共交通機関を利用しにくい、またコロナに感染した場合、障がい慣れない病院に搬送されるなど不安があります。

マスク、うがい、手洗い、三密を避け十分な対策を講じて、「うつらない、うつさない」を心に決め、感染防止の為に対策や工夫をして行動していく事が大事です。ワクチン接種も海外では始まった国もあるようですが、日本も早く接種できて、収束に向かっていってほしいものです。

事務局 ☎ 059-386-9733 (松田靖利)

三重県身体障害者総合福祉センター

三重県身体障害者総合福祉センターは県の指定管理により「障害者支援施設」と「身体障害者福祉センターA型」を運営しています。

障害者支援施設としては、脳血管障がいや交通事故などで肢体不自由や高次脳機能障がいのある方に対して自立に向けた入所・通所による支援を実施し、これまで多くの方々が単身生活や就労などの地域生活に移行されています。具体的には、機能回復を目的とした「医学的リハビリテーション」、社会生活力向上のための「社会リハビリテーション」、復職や新規就労を目的とした「職業リハビリテーション」を実施しています。また、相談窓口として高次脳機能障がいの方への相談支援を行っています。

身体障害者福祉センターA型としては、各種相談の実施、介護保険・医療保険によるリハビリテーションの実施、障がい者スポーツの推進などを行っています。この内、障がい者スポーツについては、三重県障がい者スポーツ大会【陸上競技・フライングディスク・ボウリング・卓球・バレーボール(精神障がいの部)、ボッチャ】の実施、全国障害者スポーツ大会への選手団派遣などを行っています。また、令和3年開催の全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」に向けて選手育成、団体競技の強化、指導

関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今年もよろしくお願ひ致します。

昨年は、コロナ禍によりすべての事業が中止となりました。幸い県下の障害者支援施設等での感染は殆どなく、生活介護事業所などの施設は、関係者の感染対策により利用する事ができました。しかし、休日など移動支援の利用は行く先での感染が懸念され、いつものように利用する事が困難でした。本人や保護者も活動が制限される中でストレスもあり体調を崩された方も多かったと思います。今年は、ワクチン接種が開始される見込みもあり早期のコロナ終息を祈るばかりです。

私たちは、『住み慣れた地域で、共生社会の実現! ~安心・安全に誰もが豊かに生きる社会をめざして~』をテーマに全国肢体不自由児者父母の会連合会の傘下で活動しています。機関誌による全国各地域の情報収集や東海北陸7県との交流研修会への参加を通して、先進県に一步でも近づけるよう保護者一人一人が自覚をもって、さらなる活動を展開していきます。関係各位のご支援を宜しくお願ひ致します。

事務局 四日市市南垂坂町810-47 (鈴木)

☎・FAX 059-333-0005

三重県重症心身障害児(者)を守る会

2020年当初から始まったコロナの影響は、世界中を巻き込み大変な事態となってしまいました。私たち三重県重症心身障害児(者)を守る会も、2月までは予定通りの行動計画で今年度は多少の変更があるにしても、ある程度計画実行できると考えておりました。

しかしながら、結果的にはすべての行事計画が中止になり現在に至っております。

一番心配なのは子供たちへの影響です。また親たちも高齢化が進み外出することも非常に危険な状態になりました。入所してる子供たちへの面会につきましても、日時限定、面会時間限定そしてインターネット面会、窓越し面会となりました。親子共に大変寂しい思いをしておりますが、これも予防のため致し方ないのだと思っております。

入所施設につきましては、感染予防対策を徹底していただき今のところ安心しております。

来年はワクチン開発に希望を期待しつつ、希望を持って今年度できなかった行事を計画中です。

会長 山本静雄

☎・FAX 0596-23-0216



員・競技役員等の養成も行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策として、「三重県指針」を参考にして、感染予防対策を行っています。競技別には、中央競技団体・県内競技団体において作成したガイドラインに沿って運営を行っています。

団体競技の車いすバスケットボール、グランドソフトボール、聴覚障がい者バレーボール男女、知的障がい者ソフトボール、知的障がい者フットベースボール、知的障がい者バスケットボール男女、知的障がい者バレーボール男女、精神障がい者バレーボールの選手を募集しています。未経験の方も歓迎しますので、スポーツを始めたい方、仲間作りをしたい方は、ぜひお問い合わせください。

事務局：三重県身体障害者総合福祉センター
☎ 059-231-0155 FAX 059-231-0356
HP：http://www.mie-reha.jp/

三重難病連

三重難病連は現在21（2団体活動休止）の当事者団体で構成されており、三重難病連が発足してから常に難病患者を取り巻く環境が少しでも良くなっていくことを願い、県や様々な政治団体に陳情し、署名集めなどの活動を行っています。

また、三重県難病相談支援センター事業を県から受託して下記の事業を運営しています。

○疾患別相談（毎週火・木曜10時～16時）

三重難病連に加盟している団体の相談員が療養相談や生活相談をお受けします。同じ病気の方々の悩みや、様々な問題について同じ立場で一緒に考え、問題解決のお手伝いをします。疾患によって担当日が決まっておりますので、詳しくはお電話でお問合せ、または三重県難病相談支援センターホームページでご確認下さい。（☎ 059-223-5035）

○就労相談

三重県難病相談支援センターでは、就労支援の担当がお仕事に関するご相談を受けています。また、毎月第4水曜10時～16時には、ハローワークの難病患者就職サポーターによる相談・支援も実施しています。（☎ 059-223-5045）

○小児慢性特定疾病に関するご相談

お子様のご病気に関しての困りごと・お悩みについて、担当の相談員がご相談をお受けします。

（☎ 059-223-5046）

【三重県難病相談支援センター】

☎ 059-223-5035 FAX 059-223-5064
http://www.mie-nanbyo.server-shared.com/

三重県立特別支援学校長会

平素は本県の特別支援学校の教育活動にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和2年は、思い起こせば新年を迎えた頃より中国で発症したと言われている「新型コロナウイルス」についての話題が徐々に取り上げられ、何となく不安な状況が予測された年の始まりでした。この頃は報道で取り上げられていたダイヤモンドプリンセス号に関する内容が多く、まだまだ遠い所のこのように捉えられていた感がありますが、約1年が経った今、世界中いや日本国内も全国いづどこで誰が感染してもおかしくない状況となり、誰もが身近な問題として不安感を持つこの頃です。

このような中、学校教育にも新型コロナウイルスの影響は及んでおり、学校現場に大きな変革がもたらされています。5月末までは臨時休業で学校は閉じられており、6月からの本格再開までは、子どもたちの学力保障をするため、タブレット端末を通じてオンライン授業を実施するという新しい授業形態のあり方が導入されました。これまでも学校教育の中にはパソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用したICT教育は徐々に取り入れられていましたが、新型コロナウイルスによる前代未聞の事案が起こったことで、飛躍的に進められた分野です。おそらくこのようなことが起こらない限り、いつかはICT教育をとの考えはあっても今回のように一気に進まなかった分野だと思えます。またこれらを後押しする背景には、国は「GIGAスクール構想」（Global and Innovation Gateway for All）を打ち出し、令和5年度までに義務教育を受ける全国の小中学校の児童生徒に一人1台のコンピュータを実現しようとしており、この動きもICT教育を加速させています。既に各学校においては、高速大容量の通信ネットワークの整備がなされつつあり、今後はデジタル教科書・教材が当たり前のように活用され、教育現場の活動が大きく様変わろうとしています。

特別支援学校においても同様で、ICT教育が進められることにより、子どもたちの興味や関心ある動画等をネットワークから入手して教室の前面に大きく投影し視覚的な活用をしたり、個人に与えられたタブレット端末で調べ学習を行ったり、自分の意思をこ

これらの機器を通じて「Yes、No」と表出させたりと、より具体的で個人に応じたわかりやすい授業が展開されていくでしょう。特別な支援を必要とする子どもたちにとって、このような機器を通して自分の気持ちを相手に伝えることが容易にでき、多くの情報を簡単に入手することにより学習効果は非常に高いものと思われませんが、この前にこれらの機器を使いこなす教員の力量が求められてきます。日一日と進化するICT教育に対応するため、今後は教員の研修体制の充実を図ることは急務な課題です。このため、ICT教育の効果が子どもたちに具体的に表れるのには今少し時間が必要かもしれません。けれど、時代に追いつくため各学校現場では急ピッチで推進が図られています。今後ますます進化発展していくより高度な特別支援教育の展開を願うばかりです。

各特別支援学校現場での新型コロナウイルス対策としては、子どもたちの特性に配慮しつつ、3密を防ぐなど細心の注意を払って対応しています。関係団体の皆さま方におかれましては、今後ともご理解ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

事務局：三重県立松阪あゆみ特別支援学校
校長 中川悦子 ☎ 0598-30-8170

独立行政法人高齢・障害・求職者 雇用支援機構三重支部

三重障害者職業センター

- ①一般企業で働くことを希望する障害のある方に対して、ハローワークや関係機関と連携し、就職への準備を整えるための相談・職業準備支援、就職した職場に適應するためのジョブコーチ支援、休職している方の職場復帰のための支援などの各種支援を行っています。
- ②事業主の方に対して、障害者雇用の進め方や雇用管理に関する相談・支援を行っています。
- ③障害のある方の就労支援を行っている関係機関の方に対して、就労支援に関する助言や研修などを行っています。

【お問合せ】津市島崎町327-1（ハローワーク津3階）
☎ 059-224-4726 FAX 059-224-4707

高齢・障害者業務課

- ①事業主の方に対しては、障害者雇用納付金制度に基づく納付金申告申請書・調整金支給申請書等の受付や相談を行っています。
- ②障害者雇用への理解を広げるため三重県・三重労働局の共催のもと「三重県障害者技能競技大会

（アビリンピックみえ）」を開催しています。

※令和2年11月29日（日）ポリテクセンター三重（四日市市西日野町4691）にて開催。多くの方にご参加いただき、感謝申し上げます。2021年の日時等決定しましたら、ホームページ等でお知らせいたします。

③障害者雇用への理解を広げるため、機構では「障害者雇用支援月間ポスター原画（絵画・写真）コンテスト」を実施しています。

※令和3年2月末にホームページに募集要項掲載予定
【お問合せ】津市島崎町327-1（ハローワーク津2階）
☎ 059-213-9255 FAX 059-213-9270

三重県ボランティア連絡協議会

令和2年は、今までに経験した事の無いずくめの一年でした。

新型コロナウイルス特別措置法による、緊急事態宣言が発令されて、新しい生活様式が求められる中、県境をまたぐ移動規制、さらには、学校の休校等もご承知のとおりとなり、全てが自粛を余儀なくされて、ボランティア活動にも中止という事が多くなり、皆さんには大変なご迷惑をかけました。

ウイルスという難敵に臆する事なく、多様な事業にがんばっていただいている関係者の皆さんに改めて感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

今年度も県障がい者芸術文化祭が開催されて、たくさん作品展示とお越しいただいた皆さんの笑顔にホッと気持ちが温かくなりました。

1日も早く、日常生活が取り戻される様、心からお祈り申し上げます。

今年度も県ボランティア連絡協議会の総合研修会を開催します。

コロナ禍での開催という事で遠隔地におきましてはリモートでの発信です。

日時 令和3年2月23日（火）10：00～12：00
場所 三重県社会福祉会館 研修室
内容 新型コロナ感染症について（仮題）
講師 鈴鹿医療科学大学 教授 大西健児先生
准教授 菅原秀次先生

今後共、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会長 川瀬みち代
事務局：三重県ボランティアセンター ☎ 059-229-6634



令和2年度三重県障がい者芸術文化祭 受賞者一覧

賞	部門	氏名	作品名(俳句)	所属等又は市町名
三重県知事賞	絵画	中瀬 友之	おいしくなあ〜れ!II	松阪市
	写真	田中 秀幸	釣り人	つばさ久居
	書道	河本 晃司	無限大	名張育成園ワークプレイス葉アトリエ彩
	陶芸	世古 卓也	龍	社会福祉法人ベテスタ こいしろの里
	手芸	佐藤えつ子	秋の1枚(マフラー付きベスト)	障害者サポートセンター 工房ゆう
	工芸	藤本 治市	空間	鈴鹿市
	貼り絵・CG	s i o	金魚もよう	伊賀市
三重県議会議長賞	俳句	平谷 富之	野分来るコロナの話題少し消へ	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	絵画	神廣美佐紀	不思議の国のアリス	サニープレイス
	写真	川口 乃子	パラワン島(フィリピン)の朝	松阪市
	書道	出口まゆみ	生きること	上野病院・第2ケアセンター
	陶芸	鈴木 克彦	あつまった動物たち	きらめき工房いが
	手芸	明石 澄子	お客はだあれ	亀山市
	工芸	澤田真奈美	さわだま	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
貼り絵・CG	オハナ	Ohana	就労継続支援B型ピュア	
松阪市長賞	俳句	森 朝子	二人して 秋に漕ぎ出す 車椅子	志摩市障がい者福祉会
	絵画	桑木 雪美	結の羽根	NPOぽていぼぬーる
	写真	田中 淳	大台町ダム湖 太陽の分子	大台町障害者福祉会
	書道	川村よし子	新古今和歌集 夏の歌 72番	松阪市身体障害者福祉協会
	陶芸	角谷 将史	パインド村の人々	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	手芸	平野みち子	秋のとおり入れ	桑名市身体障害者福祉協会
	工芸	上田なつ子	大名駕籠と鼓	桑名市身体障害者福祉協会
貼り絵・CG	井上 雅江	トウガン	桑名市身体障害者福祉協会	
実行委員会会長賞	俳句	瀬川 令子	平和呆け その中に居る 終戦日	大台町障害者福祉会
	絵画	武藤 誠	顔	名張育成園ワークプレイス葉アトリエ彩
	写真	岡田 武	淡く、力強く	障がい福祉サービス事業所てんでん
	書道	神野 魁	いつもありがとう	亀山市
	陶芸	山本 勇雅	ぼくと仲間のいろんな気持ち	八野就労支援センター
	手芸	馬野 峰子	花	指定障害者支援施設 聖愛園
	工芸	水谷 一美	世界遺産 金閣寺	わいわいサークル
貼り絵・CG	名古 弘子	花園	三重県聴覚障害者協会	
奨励賞	俳句	松田まゆみ	みかんがりモノレールには 子供たち	生活介護サービス あゆか
	絵画	立木 英晴	人々	垂坂山ブルーミングハウス
	写真	堀 剛延	光ってるね トマト	コラボ
	書道	三宅あやを	小倉百人一首	松阪市身体障害者福祉協会
	陶芸	木下絵里子	白ネコ・黒ネコ	きらめき工房いが
	手芸	鈴木 静恵	ミックスジュース	三重県いなば園 すぎのき寮
	工芸	奥川 正太	とこまると共に	三重県いなば園 もみのき寮
貼り絵・CG	山本 力	輝く風景	生活介護サービス あゆか	
賞	俳句	下村 好子	かき鍋やふつつ動く豆腐ねぎ	大台町障害者福祉会
	サブタイトル	高木 謙太	〜笑顔あふれる未来へ 心動かす芸術の魅力〜	さくら・介護ステーション名張

令和2年度三重県障がい者芸術文化祭

～ 笑顔あふれる未来へ 心動かす芸術の魅力～

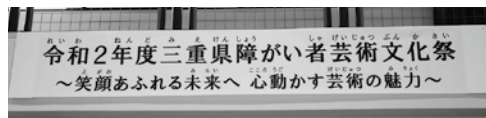
11月27日（金）28日（土）クラギ文化ホール（松阪市民文化会館）・松阪市子ども支援研究センター体育室に於いて、三重県障がい者芸術文化祭が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ステージ発表・表彰式典は行わず作品展のみとし、来場者把握のため、事前申込み制（予約制）となりました。障がいのある方が自身の能力を発揮した作品展には、絵画197点、写真10点、書道44点、陶芸18点、手芸92点、工芸36点、貼り絵・CG33点、俳句9点、合計439点。共同作品21点、特別支援学校による展示が18校あり、芸術・文化活動に対する活性化が図られました。

令和2年度三重県障がい者芸術文化祭の様子は下記の三重県障害者社会参加推進センターのホームページから閲覧することができます。

<http://www.mie-kensinren.or.jp/whatsnew/event20201127.html>



サブタイトル



会場の様子

三重県知事賞

「野分来るコ罗纳の話 少し消へ」

俳句



陶芸
龍



書道
無限大



工芸
空筒



手芸
秋の1枚



写真
釣り人



貼り絵・CG
金魚もよう



絵画
おいしくなあ〜れ!!

共同作品



特別支援学校の作品



令和3年三重県交通安全県民運動

○三重県交通安全県民運動スローガン

思いやる やさしい心で 走る三重
～気持ち良い 運転マナーの 美し国～

年間重点目標

- (1) 子どもの交通事故防止
- (2) 高齢者の交通事故防止
- (3) 横断歩道における歩行者優先の徹底
- (4) シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (5) 飲酒運転等の根絶
- (6) 自転車の安全利用の推進
- (7) 夕暮れ時又は天候に応じた早めのライト点灯の推進
- (8) 反射材の普及促進

期間を定めて行う運動

(年間運動)

思いやりとゆずりあいにて交通事故をなくす年間運動

(各季運動等)

- 春の全国交通安全運動 4月6日(火)～4月15日(木)
- 夏の交通安全県民運動 7月11日(日)～7月20日(火)
- 秋の全国交通安全運動 9月21日(火)～9月30日(木)
- 年末の交通安全県民運動 12月1日(水)～12月10日(金)
- 夕暮れ時、ちょっと早めのライト・オン運動 10月1日(金)～12月31日(金)

日を定めて行う運動

交通事故死ゼロを目指す日

全国交通安全運動期間中に実施予定

- 交通安全の日・横断歩道「SOS」の日 毎月11日
- 高齢者の交通安全の日(セーフティー・シルバー・デー) 毎月15日(S・Sデー)
- 自転車安全対策強化日(セーフティー・バイシクル・デー) 毎月第一月曜日(S・Bデー)
- 三重県飲酒運転0(ゼロ)をめざす推進運動の日 毎年12月1日

新型コロナウイルスに負けない 感染症に強い三重県に

感染防止対策を徹底し、場面ごとの感染リスクに注意

一人ひとりの感染防止対策

- **マスク着用** 特に、会話するとき、距離が近いとき
- **家に帰ったら、まず手洗い・うがい**
- **こまめに換気** 室内の温度、湿度にも注意
- **発熱などあればムリせず 自宅で療養・受診** 毎朝体温測定・健康チェック

「5つの場面」に注意!

- **飲酒を伴う懇親会等**
- **大人数や長時間** におよぶ**飲食**
- **マスクなしでの会話**
- **狭い空間での共同生活**
- **休憩室、喫煙所、更衣室** など、居場所の切り替わり

県内の新型コロナウイルス感染症に関する最新情報は特設サイトをご確認ください。
https://www.pref.mie.lg.jp/covid19_shtm

外国人住民のみならず、外国人住民のみなさまへ。For foreign residents
https://www.pref.mie.lg.jp/10000509/covid19info-ja.html

三重県 Win Covid-19 新型コロナウイルス感染症対策本部

発熱等の症状がある方の受診方法が変わりました

発熱、咳などの症状がある場合、

- (1) **まずは、かかりつけ医等の身近な医療機関に、電話でご相談ください。**
- (2) **相談する医療機関に迷う場合は、以下の「受診・相談センター」へご相談ください。**

● 診療時間や受診方法等が通常と異なる場合がありますので、受診前に電話にてご相談ください。
● 相談先の案内に従って受診してください。

＜受診・相談センター＞
9時00分～21時00分(土曜日・日曜日・祝日も対応)

桑名保健所	0594-24-3619	伊賀保健所	0595-24-8050
鈴鹿保健所	059-392-5010	尾鷲保健所	0597-23-3456
津保健所	059-223-5345	熊野保健所	0597-89-6161
松阪保健所	0598-50-0518	四日市市保健所	059-352-0594
伊勢保健所	0596-27-5140		

※ 21時00分から翌9時00分までは、三重県救急医療情報センター(059-229-1199)にご相談ください。
※ 電話での相談が難しい場合は、メール(yakumus@pref.mie.lg.jp)またはFAX(059-224-2344)でご相談ください。

咳エチケットや手洗いで感染拡大防止へ

STOP COVID-19 三重県

さへぼう つむぎちゃん

さへぼうとつむぎちゃんは県動物愛護推進センター「あすまいる」のマスコットキャラクターです

三重とこわか国体

第76回国民体育大会 2021年9月25日(土)～10月5日(木)

ときめいて人 かがやいて未来 2021

三重とこわか大会

第21回全国障害者スポーツ大会 2021年10月23日(土)～10月25日(月)

ご協力をお願い

日頃は温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当事業所は、社会福祉法人日本身体障害者団体連合会協賛のもと、全国的組織で福祉事業を実施しています。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

日本身体障害者団体連合会事業所
(お問い合わせ) 電話(フリーダイヤル)
0120-263-323

受賞おめでとうございます

◆第38回東海テレビひまわり賞

菊住典子(名張市)

生まれながらに両足股関節脱臼という障がいを持つ。11歳で両親と死別し、中学卒業後、見習いから入り、紳士服の仕立てを習得する。結婚後、二児の母になる。31歳で定時制高校に入学。調理師免許を取得し、35歳で卒業。53歳で飲食店を開業し、20年余り事業を続け、現在は店舗を賃貸し生計を立てている。同じ境遇の人が、ある名医から人工関節手術を受けて障がいを克服した番組を見て知り、佐賀県まで通い、自身も手術を受け日常生活が普通に出来るようになった。

平成27年に「歌と踊りの集い」を開催し市民の活動支援の寄付を行った他、翌年にも「歌の会」を開催し、熊本地震災害義援金を送る等、チャリティー活動を積極的に行っている。

又、健常者が突然新たな障がいを持つことで、不安を抱えている思いを聞く傾聴ボランティアを続けている。

◆三重県医療保健及び子ども・福祉関係功労表彰

○福祉団体指導者功労(知事表彰)

井上修

(津市身障者福祉連合会 会員)

○ボランティア功労(知事表彰)

手話わ会

聴覚障がい者との交流を通して聴覚障がい者を取り巻く環境や現状について理解を深める活動や、手話の普及啓発活動、手話・聴覚障がい者の方々との行事への参加、協力などを行っている。

名張音訳グループこだま

視覚障がい者のための情報提供として、録音図書、録音雑誌等の作成などを行っている。

四日市福祉レクリエーション

高齢者施設や地域での集いの場に向向いての体操やレクリエーションの実施、また知的障がい児者の団体活動でのスポーツやレクリエーション支援を行っている。

山本英子

高齢者宅訪問、高齢者昼食会の企画・提供、障がい者福祉団体のイベント支援、月1回のこども食堂の開催運営を行っている。

◆ボランティア功労者厚生労働大臣表彰

在宅福祉ネットワーク愛里寿(亀山市)

様々な分野のボランティアグループをつなぐネットワーク活動を行うことで、ボランティア相互の親睦と知識の向上に努めています。

また、長年にわたり、誰もが住み良い地域社会づくりを目指して、地域全体を対象とした幅広い分野におけるボランティア活動を行っています。

どんぐり(菰野町)

在宅重度障がい者の社会参加を長年にわたって支え続け、地域の障がい福祉の発展にボランティア団体として寄与しています。

また、学校や社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会等での行事や事業に積極的に協力し、地域のボランティア活動の啓発及び推進に尽力しています。

◆生涯スポーツ功労者及び

生涯スポーツ優良団体の文部科学大臣表彰

三重チャリオッツ(代表者 稲葉 潤一郎)

日常練習活動を継続的に開催し、競技の普及や選手発掘等の取組に尽力。また、地域の学校やイベントでの体験会の開催等、対外行事へ継続的に参加するとともにその回数を増やしており、車いすバスケットボールを通じた地域における障がい者スポーツの普及発展に寄与。

◆「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

四日市市手をつなぐ育成会

障がい者の興味関心のある活動を選択し、参加することで障がい者の生きがいや社会参画につながる取組を進めている。また、取り組める場を提供することで、仕事や学校で生き生きと取り組める力を育て、障がい者の生涯にわたる学びを支えています。

◆三重県地域スポーツ推進表彰

○地域スポーツ推進優良団体(スポーツクラブ)

三重県知的障がい者フットベースボールチーム

三重県聴覚障害者男子バレーボール部三重ボーイズ

◆三重県社会福祉協議会会長表彰

○社会福祉協議会・民間団体功労者

耕野一仁(名張市身体障害者互助会)

第66回三重県身体障害者福祉大会会長表彰

自立更生者

山森 克彦(名張市)

団体育成功労者

井上 雅江(桑名市)

平野みち子(桑名市)

河内とみ子(菰野町)

櫛木 稔(松阪市)

山岡 孝弘(多気町)

里中 拓史(志摩市)

中谷 進(大紀町)

福澤 正志(伊賀市)

藤原 泰則(伊賀市)

川本 明示(伊賀市)

松下 栄子(紀宝町)

奉仕活動功労者

松嶋 治樹(明和町)

戸田 恭(鈴鹿市) 音訳グループ「鈴の音」

藤井 俊子(鈴鹿市) 三重点訳グループ「てんでん」

平野 紀子(津市) 三重県声のポスト友の会

鈴木 清代(津市) 日本赤十字社三重県支部点訳奉仕団

加藤 敦子(四日市市) 四日市録音奉仕の会